

## 第10回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 平成30年5月31日（木） 15:00～16:10  
 【場所】 職員会館3階 第2・3会議室  
 【出席者】 検討委員会委員 12人 欠席4人  
 教育委員会事務局 8人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

- 1 開会
- 2 議題

### （1）第9回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会摘録について

発言者	発言内容
委員長	<p>今回は、まず前々回に引き続き小中一貫校について議論を行い、当委員会としては、公立の小中学校としての全市的な教育環境を捉えるには、小中一貫校ありきではなく、「小中一貫教育」を推進するとしてまとめ、今回の答申の中にも、そのような考え方を述べることにした。</p> <p>次に委員会の後半は、これまでの委員会で検討してきたことを振り返りながら、現計画に記述されている項目に沿って、見直しの論点整理を進めてきた。</p> <p>以上が、前回の議論の内容であり、本日、配布資料1として個人が特定されないよう配慮した摘録とされている。</p> <p>この摘録の内容でよろしいか。</p>
全委員	承認

### （2）答申案の検討（中間見直しの論点整理）について

委員長	<p>本日の委員会も原則公開で進めたいと思うが、状況次第では会議の途中で公開・非公開の扱いをお諮りすることもある。</p> <p>このような取り扱いでよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は議題（2）の「答申案の検討」だが、前回の委員会では見直しの論点やその考え方について協議を行い、その内容については、私と事務局で取りまとめ、今回素案として提示し検討を行うとしていた。</p> <p>今回、資料2として「答申案の検討資料（中間見直しの論点整理）」を作成しているので、この文面を見ながら、意見等があれば追加や削除等の修正を加えていきたい。</p> <p>この資料では、はじめに答申の形、スタイルについて述べている。</p> <p>今回の答申は、現計画の中間見直しという位置付けなので、基本となるのは現計画である。</p> <p>よって、現計画の内容や項目、形式をベースにしながら、今回、必要な時点修正や、委員会で検討を行った項目、考え方等を書き加えるというスタイルでどうかと思うがいかがか。</p>

全委員	異議なし
委員長	<p>それでは、答申の形、スタイルについては、そのようにする。</p> <p>また、答申書には表紙とか目次、挨拶文のような前書きも必要と思うが、次回、整ったものを提示し確認できるようにしたい。</p> <p>今回は、本文の内容の確認を進めていくが、今日の段階では項目番号等を付けないで表示している。</p> <p>今日の議論等を踏まえて、次回、答申案としての体裁を整えたいと思うが、以上のような扱いでよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>それでは、資料に沿って内容の確認を行う。</p> <p>まず1ページ、項目の1、小中学校の適正規模・適正配置の基本方針の「再編基準」について。</p> <p>ここに、これまでの議論で度々出ていた「弾力的運用の考え方」について、「地域の実情等を考慮した弾力的運用の視点等も必要」と記したいと思うがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次に「小中学校の適正規模」について。</p> <p>これまでの協議で適正規模については、現計画の基準を基本としながら、地理的条件や地域の実情等を考慮し、中学校の学校規模については、9～11学級、そして19～21学級を弾力的運用の範囲とし、適正規模に準ずるとした。</p> <p>また、小学校については、中学校以上に地域の実情を考慮する必要があるが、学校規模としては、できればクラス替えができる規模が望ましいということで「小学校については、できればクラス替えが可能な規模が望まれる」との記述にしているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は「小中学校の適正配置」について。</p> <p>適正配置についても、現計画の基準を基本とするが、学校施設や敷地の条件、施設のポテンシャルとしての違い等という意見もいただいたことから、教育環境も考慮すべきということをここで述べている。</p> <p>また、ここでは、国がいう通学時間についての考え方も提言するが、具体的な通学時間については、交通機関の実態や保護者等の意見も踏まえて、「一定の基準づくりが必要と考える」という記述にしているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は2ページ、「適正規模・適正配置の手法」について。</p> <p>これまで、学校再編は、再編対象校を閉校し、新設校を開校するという手法が進められ、対等な関係の統合としてきた。</p> <p>しかし、今後、再編対象校の組み合わせによっては、統合というこれまでの手法に限らず、通学区域の変更や編入等を行うことで、学校の適正化</p>

	<p>を図ることも検討する必要があることは現計画でも述べられているが、改めてここで述べることとする。</p> <p>また、前回の委員会でも出された、未来志向での「再編」という言葉を生かして新しい学校を創り上げるとして、「未来志向での『再編』という言葉とその意味を、今後とも尊重し取り組んでいく」との記述にしているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は大きな項目の2、学校再編に伴う諸課題と再編整備に当たっての配慮事項について。</p> <p>ここでは、まず現計画の項目や内容については、基本的には変わらないことを述べて、これまでの委員会が出された意見等を整理し、追記するものとしている。</p> <p>まず「学校の位置」について。</p> <p>学校の位置については、「既存の学校施設や敷地の条件など教育環境も考慮した学校位置であること」を付け加えている。</p> <p>また、「学校施設の整備」については、「仮校舎は避けたい」ことや、「施設整備は可能な限り再編前に行うことが望ましい」ことを付け加えているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は配慮事項の「学校再編協議会の設置」について。</p> <p>承知のとおり学校再編協議会は、これまでの学校再編の取り組みに対して大きく寄与している。</p> <p>今後もこの設置を基本とする、今後、通学区域の変更や編入等、統合以外の手法によって学校の適正化を行う場合等は、この学校再編協議会の設置には至らないこともあり得るということを付け加え、「再編協議会に拠らない再編の形も考えられる」と記述しているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は3ページに新規の項目として、まず「周知期間の必要性」、それから「小中一貫校」について、そして「財源確保の必要性」等について、委員会としてまとめた内容等を新たに書き込んでいる。</p> <p>周知については、学校関係者や、あるいは地域等に対して十分な時間をかけること。</p> <p>また、小中一貫校については、メリットも期待されるが、デメリットや課題についての意見が多く、大牟田市のこれまでの取り組みを基本に、小中一貫教育をさらに推進、充実させることが望ましいとの考えに至ったこと。</p> <p>また、次の財源確保の必要性については、学校再編には大きな費用が伴うことから、大牟田市として計画性のある財源の確保に努めていただきたいのでお願いをするものである。</p> <p>以上、三点について新規に付け加えをしているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし

委員長	<p>次は項目「3 その他」の「通学区域の見直し」について。</p> <p>通学区域に関しては、これまでの委員会で出されたもの、三池小学校区から二つの中学校に分かれて進学する、いわゆる分割校の問題と、白川小学校区内の一部区域において、再編後の中学校より近い学校が存在することに対し、弾力的な運用が必要となるということを述べており、「今後、計画の策定に当たり、特に関係する地域等に個別具体的に説明し、理解を求めながら運用方法（弾力的運用）等を考えていく必要がある」と記述している。</p> <p>次に「その他の小規模校」について。</p> <p>現計画では、適正規模に満たない学校（上内、玉川、天の原、倉永小学校）については、今後継続して検証や検討を行うとしており、本委員会においても、現計画の基本的な考え方は変わらず、地理的条件や地域の実情等により、考慮すべき現状があることを引き続き確認する必要があるということを述べることで、「地理的条件や地域の実情等により、小規模校であっても実際の再編には考慮すべき現状を再確認する」という記述にしているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は4ページの「補足資料」について。</p> <p>今回の答申に当たっては、これまで委員会で用いた「児童生徒数の推移」「学校規模の現状等」「再編後の校区図」といった図表等の補足資料も必要と考える。</p> <p>本日は、補足資料を付けるかどうかの確認だけをしたいが、付けるということでもよろしいか。</p> <p>よければ次回に準備したい。</p>
全委員	異議なし
休憩	5分間
委員長	<p>次は4ページ、項目「4 計画期間の見直し検討」について。</p> <p>これまでの議論で、第二期計画の再編時期は中間見直しの内容と、その周知期間を十分踏まえることが必要である。</p> <p>そのことを考慮すると、中学校の再編時期の見直しも必要ではないか。</p> <p>平成33年4月の再編というのは現実的に相当厳しいのではないか。</p> <p>再編時期を延ばす必要があるのではないか、等の意見が出た。</p> <p>本検討委員会としては、現計画の計画期間内、平成36年4月を目途に、中学校の再編が行われることが望ましいという考えに至ったが、中学校の再編後に行われる小学校の再編は、現計画の計画期間（平成27年度～平成36年度の10年間）には収まらないこととなる。</p> <p>そこで、答申においてこの計画期間をどのように扱うのか、考え方を整理する必要があるため、延長する案、延長しない案の二案について協議を行いたい。</p> <p>まず、案1が平成36年度までの現計画期間を延長するという考え方で、中学校の再編期間が2、ないし3年延びるとした場合、その後に行う小学校の再編は計画期間に収まらないため、計画期間そのものを少なくとも2～3年延ばすという案。</p> <p>次に案2は、平成36年度までの計画期間は延長しないという考え方。</p>

	<p>案の1のように、小学校の再編に至るまでは、相当の期間も要することになり、児童生徒数の推計や市の財政状況、あるいは国の制度等、さらに見直しが必要になるということも考えられるため、小学校の再編については、平成37年度以降の次期計画として改めて計画するという案。</p> <p>なお、両案とも中学校の再編時期を見直し、2～3年程度延長するということは共通事項としてある。</p> <p>この二つの案について、意見等があればお願いしたい。</p>
委員	<p>案1も案2もどちらも、中学校の再編期間は少なくとも2～3年延びることになるだろう。</p> <p>再編を経験した立場で考えると、これから答申をまとめ、地域へ説明に行き意見を収集したりして、それを基に見直し案をもう一回作ると思うが、見直しの計画案ができたところで再度また地域のほうへ説明に行くと、そこでまたいろんな問題も出てくるので、それを地域住民等と合意形成を図っていく必要があると思う。</p> <p>計画案ができるのに1年、それを地域に提示して合意形成をつくるまでに1年、それから再編協議会が立ち上げ2年かけて進めることを考えると、3～4年くらいはかかるのではないかと思っていた。</p> <p>よって、案1も案2も中学校（の再編時期）を延ばすのは賛成である。</p> <p>ただし、再編を行った学校、地域に見られるような、再編前と再編後における児童数や生活環境の変化等、状況の変化がいろいろ出てくる可能性があることを考えれば、推計状況も地域の情勢に合わせて読み取った上で、小学校の再編を再度考え直した方がよいのではないか。</p> <p>私は、現計画の期間は延長せずに、まずは中学校の再編について地域へ理解を求める期間をしっかりとって、次の計画として小学校を、との第2案のほうが良いと思う。</p>
委員長	<p>再編を経験された貴重な意見である。</p> <p>今の意見は、中学校の再編を計画期間内に着実に進めることが共通としてあり、小学校の再編時期は今の計画の枠組みを基本にして、改めて計画を立てるといった意見だったかと思う。</p>
委員	<p>私も案2が良いと思う。</p> <p>資料にも、「計画期間を延長するとさらなる中間見直し等の必要性も危惧される」とあるように、現段階でも危惧されることが想定されている中で期間を延長する、そういう判断をするのは得策ではないので、案2がベターだと思う。</p>
委員長	<p>ほかに意見はないようだが、この答申には案2を記述することで進めてよろしいか。</p>
全委員	<p>異議なし</p>
委員長	<p>それでは、次に5ページの項目の「5『橘中学校の活用』、『既存の近隣校を活用』の検討」について。</p> <p>ここが、本委員会で長い時間を費やしたところであり、今回の答申の骨子になろうかと思う。</p> <p>現計画では、橘中学校の施設活用については、「橘中学校の校地（資料中「敷地」との記載を修正）は狭く、施設も老朽化しているため、既存施設</p>

	<p>の建替えや大規模改造等の施設整備の検討を行い、活用が困難な場合は、現橋中学校近くへの新設についても検討する」との課題が現計画で述べられている。</p> <p>委員会では、視察後の意見交換において、このような課題を確認しながら、再編後の学校を見据えた場合の施設や敷地、教育環境についての意見が多く出された。</p> <p>このため、橋中学校の施設活用の三つの整備パターンに加え、既存の近隣校を活用するという議論にまで至ったところである。</p> <p>本検討委員会では、現計画の基本的な視点、弾力的な視点や考え方等も含めて議論を重ねる中、近隣校を活用する案を支持する意見がある一方で、現計画にある学校位置を尊重すべきでは、といった意見も出され、この間、見直しの内容が現計画全体に影響を与えることも考えられるため、慎重な積み重ねの議論を要することとなり、多くの時間を費やすこととなった。</p> <p>以上が、本委員会での検討経過だが、この項目の最後「検討経過のまとめ」の中で、今後、大牟田市教育委員会が実施計画を策定する過程において、学校関係者や保護者、地域等の意見を聞くことが必要であるということも含めて、提言してはどうかと思う。</p> <p>ここに「今後、市としての実施計画の策定に当たっては、今回の検討委員会の議論経緯等も含め、橋中学校の施設活用と近隣校活用の両論について、関係者や地域等の意見等を聞きながら進めていかれることを望む」と記載し、このまとめの終わりに「現橋中学校を活用する現行案」と、検討委員会で検討し方向性として導いた「近隣校活用案」を併記して載せてはどうかと思う。</p> <p>なお、二つの案の表記については、まだ概要しか示せていないが、意見等があれば、それも踏まえて次回までに整理をしたいと思うので、何か意見等があれば願う。</p> <p>記述では「よって以下に、現行案と、今回の検討委員会での検討の一案（比較検討案2）について示す」という記載にしているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>ただ今、二つの案を併記するという事で承認された。</p> <p>現行案の再編時期の表記は「中学校は平成33年4月、小学校は平成35年4月、及び平成36年4月」と表記しているが、本検討委員会の責任において、この再編時期の見直しが必要という補足が必要ではないかと思うが、補足をすることでよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>以上、これまで検討してきた見直しの論点を文面にして、答申案の形式で一通り見てきたが、全体を通して何かあれば願う。</p>
委員	<p>この委員会に参加させてもらい、改めて子ども達にとって教育環境の整った学校再編となるためには、学校の規模や位置等について、様々な視点で検討することが大切だということがよく分かった。</p> <p>今後は、広く市民や地域住民の意見をしっかりと聞く機会を設けながら、見直しの計画案が作成されればと思うので、よろしく願う。</p>

委員長	<p>理想と現実のギャップを埋める努力をする必要があると思う。</p> <p>今回のような再編を考えた場合、子どもを中心に据えながら、子どもが「この学校でよかった」と我々は聞きたい。</p> <p>そのようなことを睨みながらギャップを埋める努力を行い、子ども達を大事に据えた取り組みをこれからも行っていく必要があると感じた。</p>
委員	<p>子ども達が主役なので、いろんな状況を考えた時に、学校規模も適正で教育活動がしっかりできる学校が、エリアのちょうど中心にあるのが一番理想とするところだが、再編をした場合そういうこともなかなかできない。</p> <p>自分は近い中学校に行く予定だったのに、再編によって遠い所に行かなければならなかったという子ども達はどうしても出てくると思う。</p> <p>それは、再編をする上では、致し方ないところがあるので、これから市民に丁寧に説明をする時には「このような基準で考えました」というラインがすごく大切になるのではないかなと思う。</p> <p>子ども達は大牟田を支えていく宝なので、今後その子達がちょっと遠い所へ通学する時に、交通事故に遭わないように、何か犯罪に巻き込まれないように、私達大人が、社会がしっかりと考えていくべき。</p> <p>そのようなところも、一定の基準を踏まえた上での丁寧な説明ができるとういのではないかなと感じる。</p>
委員長	<p>「地域とともにある学校づくり」ということも言われており、正にそうだと思うので、丁寧に説明し、十分にきちんとした理解を得るという手法をしっかりとやるのが非常に大事になってくると思う。</p> <p>通学区域の境界に見られる現実的な課題もあるが、そのようなことも状況をきちんと説明し理解を得る、そのような手立てをしないと「創り上げる」という趣旨が薄れてくると思われるので、非常に大事ではなかろうかなと思う。</p>
委員	<p>再編時期を遅らせるのは、本当にやむを得ないことだと考える。</p> <p>ただ、再編校の開校する時期や小中の連携がスムーズにいくように、子ども達の安全面や教職員等の負担が少しでも軽減され、また学校の意見も聞いてもらい、その上で地域も納得してもらい、再編がスムーズにいけば一番いいのではないかなと考えている。</p>
委員長	<p>再編を進めていく上では、いろんな考えが出てくるが、それをいかにスムーズに進めていくか、その手立てを行政がこれから進めていく上で行う必要があるだろうということで、事務局含めてよろしくお願ひしたい。</p> <p>今回の議事のまとめをすると、まず、前回の会議内容と摘録を確認した。</p> <p>次に、これまで検討してきた見直しの論点を文面にして、答申案の形式で一通り見ていき議論したが、今回の議論で、答申案としての文面が、ほぼ固まってきたのではないかなと思う。</p> <p>次回は、今回の議論を踏まえた答申文、資料等の確認ができればと思う。</p> <p>なお、次回の検討委員会が最終回となるので、答申の文案や関連資料等、次回に向けて副委員長や事務局の協力を得ながら、遺漏のないよう準備をしたい。</p>

(3) その他

委員長	<p>それでは、最後「その他」として、何かあるか。</p> <p>なお、次回は答申に向けた案の最終調整、確認になるので、よろしくお 願いしたい。</p> <p>次回の開催等について、事務局何かあるか。</p>
事務局	<p>日程は確定はしてないが、6月末の答申の時期を踏まえると、次回は6 月の半ば過ぎ頃になるかと。</p> <p>調整の上、追ってご案内させていただく。</p>
委員長	<p>次回は6月の半ばくらいとのことだが、改めて連絡をさせていただくと のこと。</p> <p>次回は最終回なので、皆さんの出席をよろしくお願ひしたい。</p> <p>それでは、以上で本日の審議を終了する。</p>

3 閉会